公益財団法人かめのり財団

# 2016 年度/第 10 回かめのり賞

# 活動報告書

第 10 回かめのり賞　表彰者（敬称略）

○ 特定非営利活動法人　国際ボランティア学生協会

○ 特定非営利活動法人　地球市民の会

○ 特定非営利活動法人　ふじみの国際交流センター

第10回かめのり賞
特定非営利活動法人　国際ボランティア学生協会（IVUSA）

# 活動報告書

A. かめのり賞表彰回：第10回
B. 団体名：特定非営利活動法人　国際ボランティア学生協会（IVUSA）
C. 活動目的：

カンボジアでは1970年代のポル・ポト政権により、学校の破壊、知識階級層の大虐殺が行なわれ、教育基盤はほぼなくなりました。

現在の就学状況も悪く、小学校で約69%、中学校では約17%(外務省 平成26年度諸外国・地域の学校情報より)となっており、字が読めずに薬の効能や地雷原の標識が理解できないなどの問題も起きています。それ等の問題に対しIVUSAは、学校建設や交流事業を通してカンボジアの子どもたちの未来を形作るために、2008年から教育支援活動を始め、今までに6つの小学校と 1 つの図書館を建設し、それぞれの学校において継続的交流を実施しています。

## １．活動奨励金の活用方法

カンボジア王国コンポンチャム州ソテントロン郡サンボー区ポン村で、7校目となるポン小学校の建設資金の一部として活動奨励金を使用させていただきました。ポン村はプノンペンから車で10時間ほどの場所に位置し、ジャングルの中にたたずむ村での学校建設のため、まずバスやトラックが通るための道を作るとこから始まり、市街地での建設活動に比べ資材運搬などのコストもかかるため、そういったコストの一部としてあてさせていただきました。

## ２．かめのり賞表彰後の事業の活動内容・功績

2017年3月3日～3月14日の12日間、日本の大学生84名とカンボジア学生9名とで現地を訪れ、7校目となる小学校建設活動を実施いたしました。

この活動の中では、ポン小学校の建設活動以外にも、開校式や実際の授業も実施し、さらに過去に建てたミヤック小学校での運動会も実施いたしました。学校建設活動におきましては、セメント作り、教室内外の左官作業、ペンキ塗り(5教室1校舎)、床・廊下の左官作業、花壇作成を実施し、3月11日に開校式と最初の授業として音楽と美術の授業を実施しました。この活動の実際の成果として、400人もの小学生がいるポン村において、今までは木造の小さな校舎が2つしかなく1年生から4年生までしか授業が開講されていなかったのが、5教室分のコンクリート造りの学校が建ったことで天候に関係なく 1 年生から 6 年生までの子どもたちがそれぞれに学ぶ環境を整えることができました。また、音楽や美術といった授業はカンボジアではなじみがなく、授業として行われていないため、これらの授業で協調する力や表現力、豊かな感性を子どもたちに知識以外の学ぶ楽しさを伝えることができたと思います。

また、開校式へは現地の大臣にも出席いただき、SEATV や Kohsantepheap Newspaper（共に 3 月 13 日版）といった現地のメディアにも大きく取り上げられました。
活動後には、参加した学生たちによる活動報告会や、次回活動に向けた街頭募金なども精力的に実施をしており、毎月日本全国５カ所（新宿・八王子・横浜・高崎・京都）において今も継続的に募金活動を実施しております。

学生所感（東洋大学 4 年 勝又栄政）
私は、カンボジアを、教育支援を通じて「自分で人生を自由に選択できる環境」に少しでも近づけたいと思い、今回もリーダーとして活動に取り組ませて頂きました。
ミヤック小学校での運動会企画は、予想を超える子どもたちが集まり、リレーや応援合戦を行いました。子どもたちの中には、7 次隊で小学校を建てた時のことを覚えている子どもも多く、活動の繋がりを改めて感じることができました。
その後に訪れたポン村でのホームステイと建設活動は、正直不安も大きかったです。しかし、村の方が私たちに不自由ないようにととても親切に接して下さり、毎日快適で充実した日々を送ることができました。それに応えるかのように、隊員も毎日 40 度近い猛暑の中、子どもたちや仲間と共に作業を続けました。
学校完成日、ポン村の方の「こんな立派な校舎は見たことがないです。ありがとう。」という言葉と、流してくださった涙を見たときは、無事学校が完成した安堵感と、嬉しさがこみ上げてきました。このポン小学校で学んだ子どもたちが、将来カンボジアを背負って立つ姿を見るのが楽しみでなりません。
しかし、カンボジアにはまだまだ貧困や環境の問題も多く残っています。この活動を通してカンボジアにかかわる人々が増え、支援の輪が広がり、カンボジアのすべての地域が「自分で人生を自由に選択できる環境」になるようにと願っています。そのために、今後私自身もできることは何かを考え、関わり続けていきたいと思っています。
最後に、この活動ができたのは、スポンサーとなっていただいた藤原さん、活動奨励金を頂いたかめのり財団様、協賛を下さった企業様、支援物品を提供くださった西伊豆町の方々、募金に協力してくださった約 6,000 名の方々、現地スタッフの方々、と陰で多くの方のご尽力があったからこそです。心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

３．現在（又は今後）計画している事業
2018 年 3 月に日本の大学生 67 名と現地学生 10 名と 10 日間の活動で、ポン村とその他以前建設した学校へ、教育支援活動と題した交流事業を実施いたします。
次回の建設へ向けても議論を重ね、今まで建てた 7 校のうち 5 校があるコンポンチャム州において、高等教育を充実させていくべく、2019 年には中高の校舎の建設を実施しようと計画しており、その建設候補地もこの 3 月の活動で視察し、中高生とカンボジアの未来に向けたディスカッションもする予定です。

第 10 回かめのり賞
特定非営利活動法人　国際ボランティア学生協会（IVUSA）

ミヤック小学校での運動会

校舎の左官作業

校舎のペンキ塗り

作業の休憩中の交流

ポン村の開校式の様子

完成した学校での集合写真

現地の新聞記事

第10回かめのり賞
認定NPO法人地球市民の会

A：かめのり賞：第10回
B：団体名：非営利活動法人　地球市民の会
C；活動目的
　国際社会に生きる私たちを取り巻く人、社会、自然は、それぞれに助け合い支えあい成り立っています。私たちはそのことを理解し、地球市民としての意識を育てることを大切にし、世界中のすべてのものの幸せを自分の幸せと感じられる社会をつくりたいと願っています。
　その上で、地球市民としての自覚をもち、地球的課題に取り組み、世界、そしてわが地域をよくしていこうと活動しています。「アジアの中の日本」として、国際交流、国際協力の舞台はアジアに重点を置いています。

（１）活動奨励金の活用方法
〇Be Family プロジェクト
　当会は1987年よりタイの支援を開始。1990年からは、奨学金事業を開始。これまでに3451人の中高生に、奨学金を支給してきました。しかし、タイの経済発展に伴い、事業を始めた当時と比べ、奨学金なしでも学校に通える子が増えてきました。そこで、2017年度の支給を持って、タイにおける奨学金事業の終了を決めました。しかし、30年もの間、関係を続けてきたタイとのご縁は切りたくないと考えていました。そこで本年度から始めたのが、このBe Family プロジェクトです。
　これは、新たにご縁をいただいた柳川高校（福岡県）のタイ人留学生を夏休みの期間中、佐賀でホームステイで受け入れる事業です。柳川高校は2016年5月、タイに中学校を設立。中学を卒業したタイ人が柳川高校に留学できる仕組みをつくられました。タイ現地で中学校を運営するタイ日人材育成協会は 3 年前から柳川高校への留学生派遣を続けています。ただ、彼らが住む寮は夏休み期間に閉鎖されてしまいます。彼らはタイに帰国せねばならず、帰国するとせっかく覚えた日本語を忘れてしまう。
　そこで、佐賀でホームステイをしながら日本語学校に通い、昼からはホームステイ先で職場体験をするという企画を考えました。夏休みの40日間を一緒に過ごすことで家族同然のような関係を築き、さらには将来日系企業への就職を目指す彼らとビジネスパートナーになってもらいたい、との思いを込めました。
　事業初年度の今年は 1 年生 8 人が参加。タイに帰りたいとホームシックになる子もいましたが、ホストファミリーさんたちの熱心な指導のおかげで、無事に40日間を終了。夏休み後は、柳川高校の先生からも「日本語力がかなり上がっていた」「気配りができるようになった」などのお褒めの言葉をいただきました。

（２）かめのり賞受賞後の事業活動の内容・功績

タイの奨学金は 2017 年度で終了しますが、ミャンマー・スリランカの奨学金事業は継続して進めています。

7 月には、ミャンマーの奨学金調査を実施。経済的に学校に通えない子のための学生寮「タンボジ寮」や、シャン州の自治区、ピンラウン、ホッポン、シーサインの 3 地区で自宅から学校に通う奨学生たち 88 人と会い、経済状況や奨学金の使途を尋ねました。経済状況では、両親が離婚し、知人の麦小屋を借りて生活している子がいました。壁が壊れて外から室内が見えてしまうほどの粗末な造りで、農村部の貧困のひどさを目の当たりにしました。また、お父さんを小さいときに亡くし、お母さんも病気で働けないというタンボジ寮生の子は「ここに来て道が開けた」と話してくれました。

スリランカからは 2 年に一度、奨学生の招へい事業を行っており、2018 年に実施予定です。その際にも、今回の奨励金を活用させていただければと考えています。

（３）今後の展望

タイに関しては毎年、奨学生を訪ねる「さとおやツアー」を企画してきました。今後もタイへのスタディツアーは企画しますが、最後のさとおやツアーを奨学生の卒業時期に合わせた 2018 年春に企画します。これまでの事業地や、これからのプロジェクトが行う場所なども訪問できたらと考えています。

そのほか、2017 年 10 月に、佐賀でタイの文化紹介を行う「タイフェア」というイベントが開かれ、その際に、佐賀在住のタイ人やタイ好きな方が集まって、「サワディー佐賀」という実行委員会がつくられました。現在、そのメンバーを核に、佐賀在住のタイ人が交流できるネットワークを組織しようと考えています。今回実行委員会をつくったところ、佐賀大、西九州大間でも留学生の交流がなく、またタイフェアに訪れた在住の方がタイ語を話せる環境を楽しんでいただいている場面を目にしました。また、タイで佐賀が舞台となったドラマや映画が放映された影響で、現在、佐賀を訪れるタイ人がこの 3 年間で 10 倍以上に増えています。どんどん佐賀とタイの関係が強固なものとなっています。

これらを背景に、在住タイ人やタイが好きな方が交流し合える横のネットワークをつくるお手伝いを、地球市民の会として担当させていただければと考えています。最初は交流会などから始め、生活相談に乗ったり、観光施設に翻訳ガイドを派遣したりなどの事業に取り組めればと思います。また、タイフェアを九州最大のタイ文化を紹介する祭典にできたらと考えています。

ゆくゆくはネットワークの運営をタイ人の方にお任せし、佐賀県タイ日友好協会のような組織が立ち上がってくれたらと考えています。そのような運営の際にも、奨励金を活用させていただければと考えています。本当に貴重な賞をいただき、ありがとうございました。

【Be Family プロジェクト】

ホームステイ先では仕事を手伝いました

週末ごとに交流イベントも実施しました

毎日日本語学校での授業も受けました

熊本地震ボランティアに参加しました

【奨学金視察】

ミャンマーで訪ねた奨学生たちの学校にて

寮では有機農業の技術も教えています

【タイフェア】

留学生たちが準備や当日の調理を頑張ってくれたタイフェア。タイの全権大使も来場され、佐賀とタイの盛んな交流を喜んでいただきました。

第１０回　かめのり賞

特定非営利活動法人　ふじみの国際交流センター

# 活動報告書

A　かめのり賞表彰回：第１０回

B　団体名：特定非営利活動法人　ふじみの国際交流センター

C　活動目的

① 定住化に伴い家族・医療・育児・教育・住居・労働等に関して、自分ではどうすることもできない状態に直面し**生活相談**にくる在住外国人に対して、病院への同行支援、離婚相談、学校との連絡、**日本語指導、通訳、翻訳、**代筆、公的手続きへのサポート、アドバイス、物品の提供等を行う。

② 不就学・不登校の外国ルーツの児童生徒に対して修学に必要な**教科指導**を行う。また日本の学校に通ってはいるが日本語だけの授業について行くのが大変な児童生徒に対して、学校の教科の補習や悩み相談、**進路相談**などを行う。

③ 知る権利が保障されていない在住外国人のために、公的な制度についての情報や知識・日常の生活や緊急時のノウハウ・地域の生活に便利な情報などを盛り込んで、**７ヶ国語で情報を発信**している。また仲間つくりや地域での孤立を防ぐために、**交流サロン・料理教室・各種講座・語学教室・パソコン教室**などを開催している。

**④** 国際結婚でＤＶ被害に遭った外国人母子を保護し、**仮一時宿泊施設を提供**し、再出発するための様々な行政手続きや生活指導・就労支援を行い、身内ではないけれど、信頼できる他人として寄り添い、継続的に支援する。

D　内容

①活動奨励金の活用方法

現在賃貸している８０平米の１階平屋の間仕切りなしの事務所で日本語の勉強、生活相談室、会議室、交流会等、すべての活動で兼用していた。勉強している子供のそばで、子供に聞かせたくないDVや不登校、離婚の相談などが一緒に行われている日も多かった。相談者のプライバシーや子供が勉強する環境の悪さを打開するために、この奨励金で手狭になった活動場所をカバーするための多目的室を借りる家賃に当てることにした。

１部屋は会議室兼団欒室として、もう１部屋は常設のバザー質とした。

②　かめのり賞表彰後の事業活動の内容・功績

１　外国人同士の交流会の開催

１回目：子供を日本の学校に行かせている不安と問題

２回目；なぜ外国人は病院に行きたくないのですか

近隣の２市１町に暮らす外国人の方々が、今１番関心のあるテーマを決め、国を超えて話し合いをすることができた。勿論、日本人スタッフもオブザーバーとして参加、日本で暮らす苦労や悩みを自由に話し合い、自慢の料理などを持込、心から話し合う様子が見えた。今後ますます増加するであろう在留外国人に、より利用しやすく、役に立ち、居心地のよい場所を提供し、かめのり賞の創設者の意志にもあるように「日本を好きになってもらいたい」と願っている。

２　相談者が安心して悩みを打ち明け、今後の生き方をアドバイスできる部屋の実現

担当省庁がなく、ないがしろになっている在留外国人の悩み事・生活相談の場として、奨励金で購入したテーブルセットや会員の皆さんが持ち寄ってくださったソファーに座り、周りの人の目を気にせずに、ゆったりとした気持ちで心の底から自分の気持ちを表現できるようになった。日本語が不自由な人には通訳として外国人スタッフが同席し、日本語で表現できなかった真実も聞くことができた。

3　常設バザー会場の実現

今までは年２回程度開いていたバザーを、日常的に開催することが出来、活動資金の１部を補うことができた。在住外国人支援に対しての助成金や補助金がないために、すべて自助努力で活動資金を生み出さざるを得ないNPOにとって、このような機会はありがたく、バザー用品を寄付してくださる方たちに感謝するとともに、激安で生活用品が手に入れられる外国人から大変喜ばれた。

4　スタッフ会議の開催

毎月２回開催しているスタッフ会議や、月１回の理事会が開催できる部屋ができた。今までは途中で電話が入ったり、急な来客が訪れたり、相談が入ったりと落ち着かなかったが、静かにゆっくり話し合うことができた。外国人支援が活動の目的とは言え、１番大切なことはスタッフ同士の理解と交流なので、会議室の出現は持続できるNPOの実現につながる大切な役割を担ってくれるだろう。

③現在または今後計画している事業

1　日本語学習をさらに充実させ、言語の壁によって発生するさまざまな障害を軽減する
2　できるだけたくさんの地域の外国人と顔の見える関係になれるように交流機会を増やし、地域からの孤立を防ぐ
3　身内ではないけれど「信頼できる重要な他人」として一人ひとりに寄り添い、積極的に研修に参加し直面している問題を解決する
4　外国ルーツの子供を無職にしないために、基礎学力が身につくよう指導する
5　在住外国人のスキルや経験を生かした事業を開発する
6　21年間の活動から知り得た在住外国人の実状を可視化し、社会に低減する
7　社会が求める多言語での情報提供を継続して行う
8　個人エンパワーメントをチームエンパワーメントに発展させ、組織の拡充を図る
9　多目的活動室の整備と活動計画を常に考え、有効的な活用を図っていきたい。
10　警察・児童相談所・市役所・保健センターなど地域の各機関と連携し、安心安全な地域作りに寄与する

昨年はかめのり賞をありがとうございました。その誇りを忘れず、これからも地道に真面目に継続していきます。どうもありがとうございました。

第 10 回　かめのり賞
特定非営利活動法人
ふじみの国際交流センター
写真

バザーのイベントで欲しい品物を探す

浴衣の初体験

めずらしくアメリカからの来訪者を迎える

スタッフ一同でピース

母国の料理を持ち寄って楽しく団欒